
願いの願い

妖精

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
願いの願い

【Nコード】
N4742Z

【作者名】
妖精

【あらすじ】
ある日選ばれた者がたった一回だけ使える願いの力、その力の存在を知らない寺内 屍そんな彼が家族を守るためにがんばる

第1話 始まり

それは……………ある日……………

突然だった……………

ジリリリリリリリリ

ガシャン……………

勢いよく机にある時計を何か棒的なもので粉碎する

「つたく、騒がしい……………」

そう言いながらも頭をかいて起き上がる寝ぼけているせいかわら
らしながら机の引き出しのなかの鍵が何十にもしてある箱を出す

「はあく、開けたくねえなあ……………めんどくさい……………」

そう言いながらも渋々あけている……………カチャカチャ……………カ

チャ……………ガチャツ！

開いた……………そこには一つの携帯電話があつたその画面には
“着信七百二件、メール九百八十八件”

常に携帯の赤ランプがつきっぱなし電池切れはなく少しの光でさえ
も充電出来るのだが作った本人は嫌がつている何故ならば

“宛先：清水 夏南、件名どこにいるの？”

カチツ

“宛先：清水 夏南、件名あなたの居場所を教えて”

カチツ

“宛先：清水 夏南、件名どこにいるの？”

カチツ

“宛先：清水 夏南、件名早くあなたにあいたい”

カチツ

“宛先：清水 夏南、件名会いたい会いたい会いたい会いたい会
たい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会
会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会
たい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会
たい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい

会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい
たい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい
ピツ……………

「いつにかつたらこのうざったいメールが止まるんだ！」

毎日毎日一分おきにくるこの迷惑メール、しかもメアド（メールアドレス）を変えても次の日にはまたくるし返信も出来ないの一体何なんなんだ！……………おっとそういえば自己紹介がまだだったな、まあこんな小説を読んでもるのはよっぽどの物好きだなまあいい俺の名前は寺内 屍^{しなごしかはね}偉い縁起の悪い名前だ周りからは自己^{じご}中^{ちゆう}って呼ばれてるし

「ハア~~~~ツ」

ため息をついてたそのとき

ダッダッダッダッ！

誰かが階段を上がってくる音がして

バアアアン

ドアが勢いよく開いた

「に・い・ちゃ~~~~~ん!!!」

いきなり現れた子供が腹に抱きついた……

この子供の名前は寺内 桜^{しなごあつひ}姫寺内家の三女である

「兄ちゃん、速くしないと遅れるぞ！」

そう言いながら抱きしめる力が強くなる

「ハイハイっわかったよ」

そう言っつて桜姫の頭をなでながら時計をみる、時間は7時を回った所

「よしっ、」

そう言っつて階段を下りてリビングに行った、そこには朝食の準備が出来ていて台所には誰かがいた……………

「あっ兄さん速くしないと遅刻しますよ！」

こいつの名前は寺内 雪^{しなごゆき}寺内家の長女である

「おお、悪いな」

そう言っつて椅子に座る

第2話 覚醒（前書き）

キャラクタープロフィール1

名前：寺内 屍

（しない しかばね）

性別：男

誕生日：3月1日

歳：18歳

血液型：AB型

身長：181？

体重：62？

普段は優しいが犯罪や暴力に家族が絡んでいると真つ先に助けでくれる悪ふざけが嫌いで陰で努力しているやや頭がキレる

第2話 覚醒

スタスタと歩道を歩く屍と桜姫と雪、桜姫はまだ小学三年生で俺は高校三年で雪は二年、ちなみに真幸は中学三年で剣道部主将だ、そんなこんなで桜姫を小学校にやってから俺たちは高校に行く親は共働きでフラツと帰ってきてはまたどこかへいく、そんなことがあたりまえになっていたまあクリスマスと正月は必ず帰って来るから別にいいがそんなことを考えていると校門が見えてきた俺たちが通う学校は千鈴ヶ丘せんりんがおか高校こうこうまあ至いたって普通そうに見えるがそうではない、何故ならこの学校一年毎に校舎が変わるつまり園内に学校が三つあり一年、二年、三年と別れている全国各地から大勢やって来るもんだから教員も大変だろうなそんなことを思いながら校門をくぐる

「それでは兄さん、帰りに気をつけて下さいねくれぐれも怪我がないように！」

と人差し指を立てながらいう

「大丈夫だよ、子供じゃないんだから」

そう言っいていいこうとすると

「あつそれと私帰り部活で遅くなります！」

それだけ言いうと自分の校舎がある所に向むかって走はっていった

「全く、心配性だなまあいいや」

そう思うと校舎の中に入り教室に入った、そして学校が終わるそのまま家に帰ろうとすると目の前に仮面をして黒いマントを羽織った人がいた

「君は……寺内 屍だね？」

突然そう聞いてきたので俺は

「はい、そうですけど？」

と、普通に対応したすると突然

「ならばここで死んでもらう、貴様の血は何色だ？」

そう言いながらどこから出したか分からない大きな鎌を取り出した

「……………!!!?」

訳がわからなかったいきなり現れて死ねって言われてすぐに逃げ出したかったでもそんなことを考える暇もなく俺は切られた……………

……………ん?

光に照らされ目覚めた所はなんの変わりのない教室だった

(……………?)

「ゆ……………め……………?」

俺はしばらく、と言ってもものの5、6分間ボーっとしてただけすると

「ねえねえ、屍君は文化祭の出し物何がいい?」

いきなり誰かがそう言ってきた俺はハッと気づき立ち上がり回りを見渡す

「!……………教室……………だよな?」

そう口ずさんで言った

「そうだよ、今更何いってんの?当たり前じゃん!」

前の奴が言ってきた

「お前は……………誰だ?」

本当に知らなかった回りの奴らも誰もこいつについては何も言わなかったソイツがそこにいるのが当たり前見たいにこっちを見始めた
「ひつど……………い!!!」

そう言っただけ目の前の女子は頬を膨らませている

「私の事を忘れるだなんて酷くない!」

「……………あ……………う……………」何も言い返せない何しろ分からないの

だから相手が何者で何の関わりを持っていてのかが分からないのだ
そんな感じで困っていると先生が来た、しかも俺の知らない先生だ
赴任してきたのか?、でもそんなことがあるなら集会をやるだろう
……………何故か頭が困惑してきた、頭が痛い吐き気もする……………

……………

「何なんだこれは?」

そう呟く俺の知らないところで何かが変わりはじめている………た
だこれは始まりに過ぎなかった

第2話 覚醒（後書き）

キャラクタープロフィール2

名前：寺内 雪

（しない ゆき）

性別：女

誕生日：5月29日

歳：17歳

血液型：A型

身長：162？

体重：47？

B：91 W：52 H：83

心配性の長女真面目でしっかりしている家庭的で炊事や洗濯をして
くれるキレると怖い

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4742z/>

願いの願い

2011年12月17日01時54分発行